

# 第2次枚方市里山保全基本計画

[平成29年度～令和4年度]

## 中間報告

令和5年3月



平成 28 年度（平成 29 年 3 月）に改訂した「第 2 次枚方市里山保全基本計画」の計画期間は、平成 29 年度から平成 38 年度（令和 8 年度）までの 10 年計画としています。また、本計画に該当する取り組みについては、進捗状況や計画目標の達成状況を庁内委員会である「里山保全委員会」において報告し、おおむね 5 年後をめどに、取り組みや目標の改善、見直しを行うこととしています。

そこで今般、各取り組みの進捗状況等を報告するとともに、目標の改善等の必要性について検討を行うものです。

本計画は、みどりの基本計画と整合を図り、

基本方針：『枚方の優れたみどりを守り、活かしていく〈守り、活かすみどり〉』

基本方向：『里山の保全・活用』とし、3つのグループごとに取り組みを進めてきました。

- (1) 里山の自然環境の保全、維持・回復
- (2) 里山の活用の促進
- (3) 維持管理の強化

※評価は令和 3 年度の実績をもとに下記の基準で行います。

A・・・実施、概ね実施

B・・・実施（着手・検討）したもの、目標達成に向けて引き続き実施するもの

C・・・未実施（未着手・未検討）

## 資料の構成

本資料は令和 3 年度までの取組実績及び令和 4 年度以降の取組見込みをまとめたものです。

3つのグループ、全取組目標 14 事業について、取組実績及び取組見込みを抽出したものです。

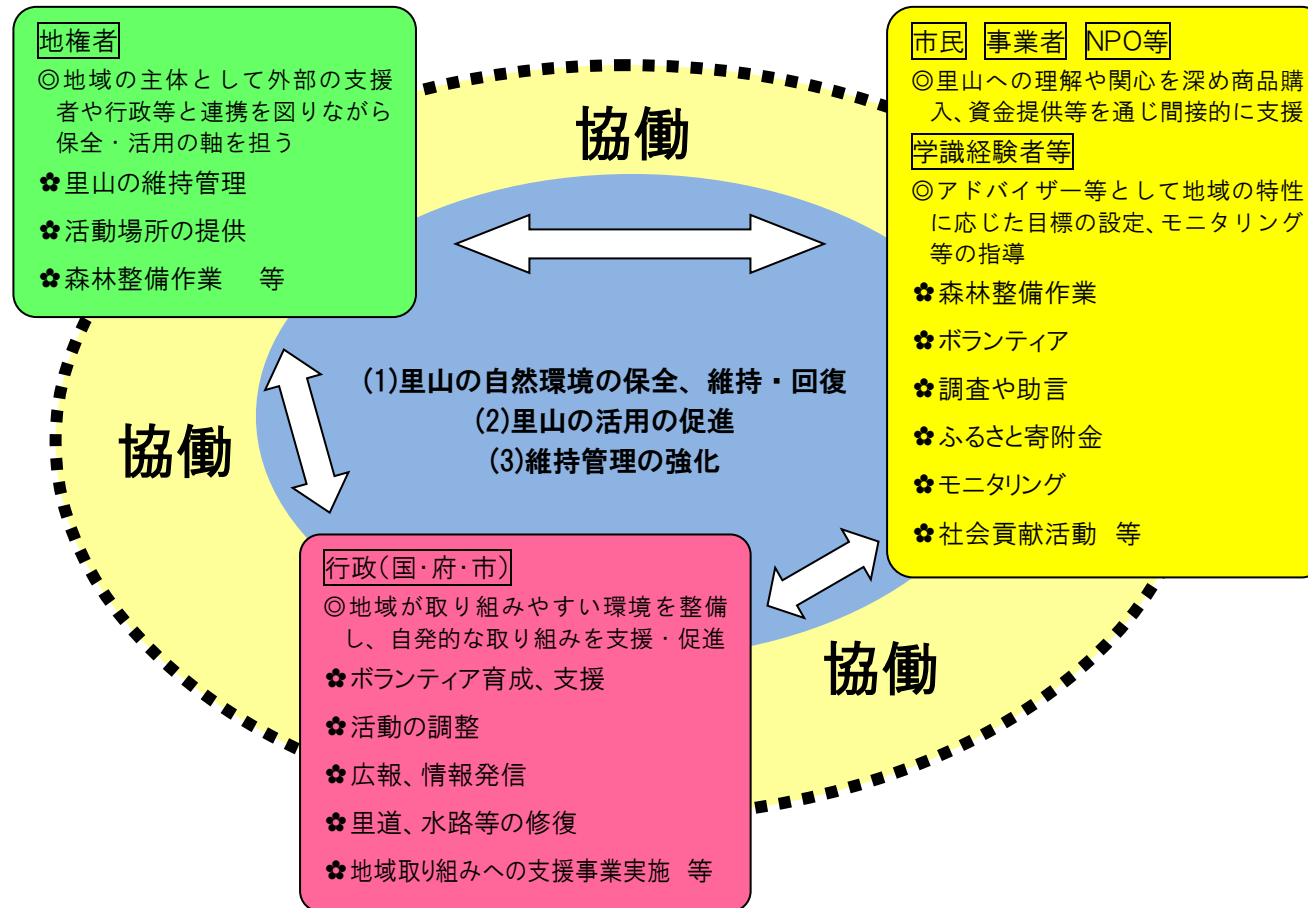
なお、グループ毎に評価及び今後の課題を明記しています。



## 目標 15.

陸の生態系を保護・回復するとともに持続可能な利用を推進し、持続可能な森林管理を行い、砂漠化を食い止め、土地劣化を阻止・回復し、生物多様性の損失を止める

～関係主体の協働と主な役割のイメージ～



## 【基本方向(1)里山の自然環境の保全、維持・回復】

適正な植生管理が行われている里山の樹林地は、健全な樹木が育ち保水力のある肥えた土壌となり、その土地の「地力」を上げ、土砂流出防止や洪水調整等の災害防止機能などの諸機能を発揮し、市民に安全と豊かな自然環境を提供するだけでなく山地の保全につながります。そして、豊かな自然環境は、動植物の生息・生育の場や環境を確保するだけでなく、美しい景観を形成し、里山を訪れる市民に憩いと安らぎ、健康の増進の場を提供します。

取り組みの名称	取り組み内容	～令和3年度実績	評価	令和4年度見込み	令和5年度以降の見込み
1. 多様な主体と連携した里山の保全・活用のモデル地区の導入検討 【農業振興課】	多様な主体と連携した里山の保全・活用のモデル地区の導入検討	他市の先進事例の情報収集を行い、東部地域全体をモデル地区とし、里山の保全や活用の検討を行った。	A	東部地域の活性化に向け、市民、里山ボランティア活動団体等と新たに竹林整備を実施した。	引き続き、竹林整備を実施するとともに、モデル地区導入に向けた具体的な場所や活用方法を検討する。
2. 地域制緑地の指定継続や拡大検討 【農業振興課】	・既存の地域制緑地の指定継続 ・新たな市民緑地制度など、みどりの保全策の導入検討 ・異なる主体間の連携による維持管理の仕組みづくりの推進、管理協定制度の導入検討	企業、大学との連携による里山の維持管理の仕組みづくりについて検討を行った。	A	摂南大学と連携し、里山の現状や問題点等について、意見交換を行った。	市民、市民団体、事業者、大学等、異なる主体間と連携し、モデル地区での維持管理の仕組みづくりを検討する。
3. 市民や市民団体との協働による生態系や里山景観に配慮した自然環境の形成 【農業振興課】	・生物多様性の状況、環境保全の重要性の啓発 ・特定外来種の駆除や捕獲、害獣に対する支援対策の検討	害獣に対する支援対策として、イノシシ被害防止対策事業補助金を創設。	A	イノシシ被害防止対策事業補助金の交付、里山ボランティア活動団体による放置竹林の整備への支援を行った。	引き続き、イノシシ被害防止対策事業補助金を交付する。また、生態系を崩す原因となっている放置竹林の状況について、里山ボランティア活動団体等と情報共有するとともに、里山保全の重要性の啓発を行っていく。
4. 市民や市民団体との協働による防災機能の高い森林づくり 【農業振興課】	・大阪府との連携によるさらなる治山事業の推進 ・里山ボランティア活動団体への支援 ・山火事予防の啓発	大阪府による治山ダムの設置。尊延寺地区で1基、津田地区で2基、穂谷地区で1基、津田国見山で流路工一式。	A	大阪府と大雨等による被害について、情報提供するとともに、倒木処理やその他の維持管理について調整を行った。	大阪府による治山ダムの設置、また、流木対策や大雨等により崩れた山道等の補修についても大阪府と調整し、実施していく。

## 評価

多様な主体と連携した里山の保全・活用のモデル地区の導入検討について、枚方市の東部地域に残された貴重な里山を次世代に残していくためには、地権者とボランティア団体による活動だけではなく、新たな担い手、多様な主体により協働が必要となります。そのために他市の先進事例などの情報収集を行い、東部活性化に向け、市民、企業、大学、ボランティア団体等の多様な主体とともに、里山の保全、活用方法及び維持管理の仕組みづくりについて検討を行いました。

市民や市民団体との協働による生態系や里山景観に配慮した自然環境の形成について、市民団体による生態系調査の結果を環境白書やイベント等で市民に周知し、生物多様性の状況、環境保全の重要性の啓発を継続して行いました。また、近年、増加している害獣被害においては、イノシシ被害防止対策事業補助金を創設しました。

市民や市民団体との協働による防災機能の高い森林づくりについて、近年の大雨等の自然災害による被害について、大阪府と情報共有を行い、維持管理について調整を行うとともに、計画的な治山事業推進の要望を行いました。



治山ダム設置前・後



## 今後の課題

現在、地権者や里山ボランティア活動団体が主体となって、里山保全を行っています。高齢化により、活動範囲、活動内容が縮小され、継続が困難な状況になっています。今後は、企業や大学など、多様な主体と連携していく必要があるため、具体的な方法や仕組みづくりに取り組んでいきます。

東部地域、特に穂谷地区には希少な動植物が多数存在しています。この生態系を守るためには、地権者だけではなく、地域を訪れる市民に対して情報共有が必要であり、環境保全の重要性を引き続き、啓発していきます。あわせて、特定外来種の駆除や捕獲、イノシシ被害防止対策事業補助金の交付を継続します。

近年の大雨等による被害状況について、地元や里山ボランティア活動団体の現地確認等における情報提供を受け、関連する部署や大阪府と情報共有を行い、調整を図っていますが、対応に時間を要するなどの課題があります。今後も迅速な対応ができるよう関係部署との協力体制を構築するとともに、大阪府へ治山事業の推進を要望していきます。

## 【基本方向(2)里山の活用の促進】

都市化が進行する一方で、市民の自然とのふれあいの機会が減少しており、特に子どもたちの自然離れが憂慮されています。遊びや生活の中で豊かな自然や生きものと接し、交流した体験は、その後の健全な心身の発達に欠かせません。居住地周辺にあって多様な生きものや景観、生活文化を有する里山は、自然観察などの環境教育・環境学習のみならず、農業体験、森林浴など心身をリラックスさせてくれる保健機能などさまざまな体験活動の場としての活用が可能です。

取り組みの名称	取り組み内容	～令和3年度実績	評価	令和4年度見込み	令和5年度以降の見込み
1. 地元と連携した里山の周知・PR 【農業振興課】	・森づくり委員会を通じて、里山保全への協力要請、意識啓発 ・里山保全に関するイベント、広報活動の継続・拡充	森づくり委員会において、地権者への意識啓発を行っており、年2回開催していたが、コロナ禍のため令和2年度は開催できず、令和3年度は穂谷森づくり委員会のみ1回開催した。	A	各森づくり委員会を6月と年度末に（年2回）開催予定。	森づくり委員会を通じて、地権者に里山保全への協力を要請するとともに、地権者との他構成メンバーとの調整を行う。また、里山保全の啓発イベントや里山の広報活動を行っていく。
1. 地元と連携した里山の周知・PR 【東部資源循環センター】	・里山保全に関するイベント、広報活動の継続・拡充	毎年度、環境フェスタ氷室ふれあい里の駅を実施してきたが、令和2年度、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止した。	A	環境フェスタ 氷室ふれあい里の駅は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止したが、同時開催を予定していた子ども服・おもちゃのリユースイベントは単独で実施した。	環境フェスタ 氷室ふれあい里の駅開催予定。

【東部資源循環センター】環境フェスタ 氷室ふれあい里の駅

会場の様子



農産物販売コーナー



メダカすくいコーナー



足湯コーナー



消防体験コーナー（救命救急と煙体験）



工場見学ツアー



煙突登頂ツアー



ミニ消防車 乗車コーナー





<p>2. 里山でとれる資源による地産地消の促進 【農業振興課】</p>	<p>・資源を活用する方策・ 地産地消の推進 ・農業ふれあいツアーの継続実施</p>	<p>ふれあい朝市「野菜の直販」支援を実施した。</p>	<p>A</p>	<p>ふれあい朝市「野菜の直販」支援を実施した。</p>	<p>直販やイベント等で農産物の販売を推進する。</p>
--	--	------------------------------	----------	------------------------------	------------------------------

【農業振興課】農業ふれあいツアー等



氷室 じゃがいも



津田 たまねぎ



杉 たまねぎ

<p>3. 自然観察や森林療法、健康増進等の場としての里山の活用 【環境政策課】</p>	<p>・自然観察や森林療法、健康増進の場、学校の環境学習や生涯学習の場としての活用</p>	<p>令和元年度まで、枚方に残る身近な自然や野生動物等の話を通じ、自然保護についての意識高揚を図ることを目的に講演会を開催。（令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止、令和3年度は別テーマ「淀川の自然」にて開催。） 昭和63年から平成元年にかけて自然環境調査「枚方ふるさといきもの調査」を実施。</p>	<p>A</p>	<p>令和4年度は、生物多様性をテーマに講演会を開催。 令和4年度から5年度にかけて、自然環境調査を実施。</p>	<p>前年度に引き続き、講演会や、自然環境調査を実施する予定。</p>
--	---	---	----------	---	-------------------------------------

<p>3. 自然観察や森林療法、健康増進等の場としての里山の活用 【文化生涯学習課】</p>	<p>・自然観察や森林療法、健康増進の場、学校の環境学習や生涯学習の場としての活用</p>	<p>平成 30 年 4 月 1 日より、津田生涯学習市民センターは指定管理制度を導入したが、活動委員会事業として「里山散策」を継続して実施。 令和 3 年度は、10 月（穂谷～朱智神社）、11 月（国見山周辺）、1 月（石清水八幡宮）、3 月（甘南備山）の計 4 回実施。延べ参加人数 84 名。3 月の開催分で 200 回目の開催となった。※5 月、9 月にも実施を計画していたがコロナ感染拡大のため中止。</p>	<p>A</p>	<p>年 3 回程度開催の予定 ※参加者、引率者の障害保険内容見直しのため 上期は開催せず。</p>	<p>年 6 回程度開催の予定</p>
<p>3. 自然観察や森林療法、健康増進等の場としての里山の活用 【農業振興課】</p>	<p>・自然観察や森林療法、健康増進の場、学校の環境学習や生涯学習の場としての活用</p>	<p>里山ウォーキングを関係課との連携により開催予定としていたが、雨天中止となった。</p>	<p>A</p>	<p>3 月に関係課と連携し開催予定。</p>	<p>里山ウォーキングの継続とともに、里山の啓発事業として、新たなイベントを検討する。</p>
<p>3. 自然観察や森林療法、健康増進等の場としての里山の活用 【スポーツ振興課】</p>	<p>・自然観察や森林療法、健康増進の場、学校の環境学習や生涯学習の場としての活用</p>	<p>野外活動センターにおいて、学校キャンプを実施したほか、自然観察や天体観望、ネイチャークラフトなどの野外活動プログラムを提供。また、キャンプフェスティバルでツリークライミング体験などを実施。</p>	<p>A</p>	<p>野外活動センターにおいて、引き続き学校キャンプを実施するほか、自然観察やツリークライミング体験などの野外活動アクティビティを提供する。</p>	<p>東部地域活性化に向けて、野外活動センターにおいて里山を生かしたアクティビティの提供を行っていく。</p>

3. 自然観察や森林療法、健康増進等の場としての里山の活用  
【教育研修課】

・自然観察や森林療法、健康増進の場、学校の環境学習や生涯学習の場としての活用

教職員研修計画の策定において活用を検討した。

B

教職員研修計画の策定において活用を検討を継続していく。

教職員研修計画の策定において活用を検討を継続していく。

【農業振興課】里山ウォーキング

【環境政策課】自然環境を考える講演会



登山口から野外活動センターへ



国見山頂上



市民参画と協働による里山保全



【文化生涯学習課】里山散策

【スポーツ振興課】キャンプフェスティバル



交野山にて里山散策



穂谷～朱智神社へ



茶摘み体験



ツリークライミング体験

<p>4. 事業者の社会・環境貢献活動の場としての里山の活用 【農業振興課】</p>	<p>・環境貢献活動（CSR活動）、社員教育の場としての里山の活用を促進 ・事業者と地権者、市民団体とのマッチング ・活動フィールドの拡大、検討</p>	<p>里山保全について、公民連携プラットフォームを通して、課題募集シートを提出した。事業者からの問合せ等はあったが、マッチングまで至らなかった。</p>	<p>B</p>	<p>公民連携プラットフォームを活用し、事業者へCSR活動の推進を行った。</p>	<p>引き続き、公民連携プラットフォームを活用し、事業者へ里山のCSR活動の推進を行う。</p>
<p>5. 市民団体との協働による誰もが里山の魅力を体験できる場所づくり 【農業振興課】</p>	<p>・元公園墓地用地、（仮称）自然環境保全活用事業用地の活用について検討</p>	<p>平成30年度から令和2年度まで「森林スペシャリスト育成講座」の実習地として活用した。また、元公園墓地用地の活用方法について検討した</p>	<p>A</p>	<p>元公園墓地用地の活用方法について検討した。</p>	<p>元公園墓地用地の活用方法について、里山保全の体験等ができるメニュー等を検討する。</p>
<p>5. 市民団体との協働による誰もが里山の魅力を体験できる場所づくり 【スポーツ振興課】</p>	<p>・野外活動センターの活用について検討</p>	<p>民間事業者との連携による事業を実施したほか、冬季利用のニーズ調査のため冬季期間の開所及び2月のロッジ宿泊を試行などにより、野外活動センターの活用に取り組んだ。</p>	<p>A</p>	<p>東部地域の活性化にもつなげるため、公民連携プラットフォームを活用した民間事業者との連携をより進めるとともに、冬季利用に関する試行も拡大して実施するなど、野外活動センターの活用に取り組む。</p>	<p>民間事業者との連携等により、東部地域において賑わいの中心となる施設を目指していく。</p>

## 評価

里山の周知・PRについて、令和元年度までは、枚方の里山・収穫の秋穂谷、ふれあい土木展、環境フェスタ 氷室ふれあい里の駅などのイベントで里山ボランティア活動団体の紹介やパネル展示等を行っていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、様々なイベントが中止されるなど、市民に対してPRする機会が少なくなりました。また、地元、里山ボランティア活動団体及び学識経験者等で構成されている、穂谷、津田の森づくり委員会においては、書面会議を行い、各委員と情報共有を行いました。

里山で取れる資源による地産地消の促進については、ふれあい朝市「野菜の直販」の支援や農業ふれあいツアーを実施することで、市民に新鮮な農産物を供給することができました。

自然観察や森林療法、健康増進の場としての里山の活用については、自然保護に関する講演会、里山散策、里山ウォーキング等を実施、野外活動センターでは、学校キャンプの受入れ、自然観察や天体観望などの野外活動プログラムを提供、キャンプフェスティバルでツリークライミング体験などを実施しました。

事業者の社会・環境貢献活動の場としての活用については、現在5社の企業が里山ボランティア活動団体とともに保全活動を行っています。公民連携プラットフォームを活用し、積極的に民間事業者との連携を図りましたが、マッチングには至りませんでした。

里山の魅力を体験できる場所づくりについて、元公園墓地用地は平成30年度～令和2年度に実施した森林スペシャリスト育成講座の実習地として活用しました。今後の活用方法については、引き続き検討を進めています。野外活動センターでは民間事業者との連携により事業を実施したほか、冬期利用のニーズ調査を実施しました。



## 今後の課題

里山の周知・PRについて、東部地域の活性化に向け、他部署と連携した新たなイベントの企画や民間事業者との連携により、里山の魅力の発信に取り組みます。広報誌だけでなく、Twitter、FacebookなどのSNSを活用することで里山に関する情報を発信し、ホームページも充実させていきます。

里山の資源の促進については、引き続き、ふれあい朝市「野菜の直販」の支援を行うとともに、他のイベントで地元産野菜の販売等に取り組みます。

里山の活用については、公民連携プラットフォームなどにより企業と連携し、ウォーキングや森林浴などが体にもたらす効果を実感できるような新たなイベントを検討します。野外活動センターでは、民間事業者などとの連携をより進め、施設の活用に取り組みます。

事業者の社会・環境貢献活動（CSR活動）による里山の活用を促進し、活動を希望する事業者と地権者、団体とのコーディネートを積極的に行っていきます。

元公園墓地用地の活用方法について、里山の魅力を体験できるようなメニューを検討し、実施に向けて取り組みます。

## 目標設定

### ◆指標

項目	策定時の値 (H27年度)	令和3年度	令和8年度	関連する取組目標
里山保全のイベント参加者数	711人	—	1,000人	取組目標2
森づくり委員会, ボランティア団体意見交換会開催件数	4回	1回	6回	取組目標2・3
里山保全活動をCSR活動として実施している事業者数	3社	5社	8社	取組目標2

### 【基本方向(3)維持管理の強化】

里山は、農村生活や農作業などの人の手が入ることで保全されてきましたが、担い手不足などの影響によって、森林管理が不十分である状況が見られ、日照不足や竹林の拡大も懸念事項として挙げられます。その対策として行われている里山保全は、自然環境を残そうとする市民がボランティアとして立ち上がり、森林整備作業等の活動をしています。本市においても森林ボランティア育成講座をきっかけに、市民が中心となってボランティア活動団体を立ち上げ、地権者の協力を得て、里山の維持管理活動を継続しています。

取り組みの名称	取り組み内容	～令和3年度実績	評価	令和4年度見込み	令和5年度以降の見込み
1. 市民団体との協働による里山での活動を支えるインフラ整備 【農業振興課】	・元公園墓地用地、(仮称)自然環境保全活用事業用地の公共的な活動拠点としての活用検討 ・里山の維持管理に必要なインフラ整備の検討、推進	元公園墓地用地の活用方法について検討した。	A	元公園墓地用地の活用方法について検討した。	今後も、元公園墓地用地の活用方法について検討する。また、公民連携プラットフォームを活用し、インフラ整備について検討する。

<p>2. 多様な主体のプラットフォームづくり 【農業振興課】</p>	<p>・森づくり委員会、里山ボランティア活動団体との意見交換会の開催</p>	<p>森づくり委員会において、地権者への意識啓発を行っており、年2回開催していたが、コロナ禍のため令和2年度は開催できず、令和3年度は穂谷森づくり委員会のみ1回開催した。</p>	<p>A</p>	<p>津田、穂谷森づくり委員会、里山ボランティア活動団体との意見交換会を各2回開催予定。</p>	<p>今後も、地元、里山ボランティア活動団体等の意見を聴取する場として、委員会、意見交換会を開催する。</p>
<p>3. 市民活動の誘発と支援 【農業振興課】</p>	<p>・森林ボランティア育成講座「里山講座」の継続実施 ・様々な主体を対象とした講座内容の検討</p>	<p>里山講座（連続講座）は感染症対策を行いながら実施した。</p>	<p>A</p>	<p>里山講座（連続講座）や春・秋の植物観察会（単発講座）、各講座の修了生を対象に穂谷の竹林整備（4、5月）を実施した。</p>	<p>今後も里山講座（連続講座）を継続し、アンケート等を参考に単発講座等を検討していく。</p>

【農業振興課】里山講座



植物観察会



ヒノキの間伐



竹の間伐



えん堤作り

<p>4. 里山保全活動への支援 【農業振興課】</p>	<p>・里山保全活動補助金の交付継続 ・対象品目の見直し等を検討</p>	<p>里山ボランティア活動団体6団体に対し、補助金を交付した。</p>	<p>A</p>	<p>里山ボランティア活動団体6団体に交付予定。里山保全活動補助金の対象品目の見直しについて、里山ボランティア団体からの意見を聴取し、検討した。</p>	<p>今後も、里山ボランティア活動団体からの意見を聴取し、必要に応じて対象品目の見直しを検討するとともに、補助金の交付により、里山保全活動の支援を行う。</p>
----------------------------------	--	-------------------------------------	----------	--	--

<p>5. 里山での営農支援制度の導入検討 【農業振興課】</p>	<p>・農地を利用したい市民・市民団体と農地所有者をつなげる制度の導入検討</p>	<p>棚田地域振興法など、里山の営農支援につながる法律や制度、取り組みについて検討した。</p>	<p>A 東部地域の活性化に向けた取り組みとして、営農ボランティア制度の活用を検討や公民連携プラットフォームで農地を利用したい市民団体を募集している。</p>	<p>東部地域の活性化に向けた取り組みとして、引き続き、営農ボランティア制度の活用や公民連携プラットフォームで農地を利用したい市民団体を募集していく。</p>
---------------------------------------	---	--	---	---

## 評価

元公園墓地用地、（仮称）自然環境保全活用事業用地について、里山の保全活動拠点として、また、里山活動を体験できる場所としての活用方法を検討しましたが、ライフラインが整備されていないなどの理由で実現に至りませんでした。

地権者、市民、行政（大阪府・枚方市）で構成されている、穂谷森づくり委員会、津田地区森づくり推進委員会では、里山の保全や整備に関する協議を行い、里山ボランティア活動団体との意見交換会を開催することで、多様な主体のプラットフォームづくりを行いました。

市民活動の誘発として、森林ボランティア育成事業を実施しています。里山保全活動等に参加するきっかけづくりとして、里山ボランティア活動団体と協働し、初心者を対象とした連続講座「里山講座」、春と秋には「植物観察会」、里山講座等の修了生を対象とした竹林整備を実施しました。

里山保全活動への支援として、里山ボランティア活動団体が安定的かつ継続的に活動できるよう、枚方市里山保全活動補助金の交付を行いました。また、里山での営農支援制度の導入について、法律や制度、取り組みについて検討しました。



竹細工

## 今後の課題

元公園墓地用地、（仮称）自然環境保全活用事業用地の活用については、引き続き、公民連携プラットフォームの活用、地元・企業などと連携し、里山活動を体験できるメニューの検討、インフラ整備について取り組みます。

穂谷森づくり委員会、津田地区森づくり推進委員会の開催においては、事前に打ち合わせをするなど要点を明確にすることで、会議を活性化させ、有意義な委員会の開催に向け取り組みます。

従来から実施している森林ボランティア育成事業において、一定の効果は見られますが、里山ボランティア活動団体の高齢化が進む中、若い世代、定年間近の世代など、様々な世代にあった新たな事業の検討が必要であり、講座内容の見直し、新たな講座、イベントの検討を行い、里山ボランティア活動団体への加入促進、新たな団体の設立等を目指し、取り組みます。

里山ボランティア活動団体との意見交換会で、新たに里山保全活動補助金の対象とする道具、資材などの聞き取りを行うなど、円滑な活動ができるよう、今後も里山ボランティア活動団体への支援を継続して行っていきます。



## 目標設定

### ◆指標

項目	策定時の値 (H27年度)	令和3年度	令和8年度	関連する取組目標
森林ボランティア育成講座修了者数(累計)	265人	376人	485人	取組目標3
里山ボランティア活動団体の活動日数(累計)	2,243日	3,854日	4,443日→5,000日 (※)	取組目標3
里山ボランティア活動団体数	6件	8件	8件→9件 (※)	取組目標3
森づくり委員会, ボランティア団体意見交換会開催件数	4回	1回	6回	取組目標2・3

(※) 令和3年度の実績を鑑みて、令和8年度の目標数値を変更しています。

## 総評

人の営みによって維持され、多様な生物の生息、生育環境として、自然環境を豊かにする役割を担ってきた里山は、少子高齢化による人口の減少、地球温暖化をはじめとする環境問題、高齢化による森林の管理不足、耕作地の放棄などにより里山の取り巻く状況は大きく変化してきました。

こうした様々な状況を踏まえ、将来に向けた里山の保全・継承の基本的な考え方や方向性を示した「第2次枚方市里山保全基本計画」に基づき、取り組みを進めてきました。

平成29年の計画策定以降、「里山の自然環境の保全、維持、回復」「里山の活用の促進」「維持管理の強化」の3つを基本方向と定め、様々な事業に取り組んできました。基本方向ごとのこれまでの実績や課題等については先述のとおりであり、計画の達成に向けては引き続き取り組みを進めていく必要がありますが、この間、「枚方市東部地域の活性化に向けて」が令和4年3月に策定されました。概ねJR学研都市線以東の東部地域の活性化に向けては、東部地域の資産である豊かな自然や里山、農地の維持には人の手による管理が必要であり、未来にわたってこの資産を残し、活用していくためには、農業や里山管理の担い手育成などが課題となっています。また、持続的な東部地域の活性化のためには、居住環境の保全を図りながらも、多くの人に訪れてもらえるよう、地域としての魅力向上や賑わいの創造を図る必要があります。

以上のことから、「枚方市東部地域の活性化に向けて」の方針及び方向性との整合性を図りながら、新たに以下の取り組みを実施します。

## 【新規の取り組み】

取り組みの名称	取り組み内容	～令和3年度実績	評価	令和4年度見込み	令和5年度以降の見込み
基本方向（2） 3. 自然観察や森林療法、健康増進等の場としての里山の活用 【農業振興課】	・自然観察や森林療法、健康増進の場、学校の環境学習や生涯学習の場としての活用		新規	「癒しの郷 氷室・津田～美（be）Health プロジェクト～」を作成。里山を保全するだけでなく、観光を視野に入れた里山の利活用を検討していく。プログラムにあるたけのこ掘りを4月に実施するため、地元との調整を図る。	森林ヨガなど、女性をターゲットとした事業や自然治癒力を高め、健康に効果があるという森林浴・森林セラピー、東部地域で収穫した野菜を使った料理体験など、既存のイベントにプラスすることで、新たな里山での楽しみ方を検討し、市民の憩いの場としていく。

### 【取り組みの方向性】

枚方市では、令和4年3月に「枚方市東部地域の活性化に向けて」が策定されており、本市の概ね JR 学研都市線以東の地域は、地域の資産である豊かな自然や農地を残し、活用していくことと定めています。これらの地域資源の維持保全のためには、良好な地域環境を維持しながらも、地域資源を観光資源として位置付け、多くの人が地域を訪れその魅力を感じるよう取り組む必要があると定められています。また、農業振興課では、継続した取り組みとして実施していくために、「癒しの郷 氷室・津田～美（be）Health プロジェクト～」を策定しており、「癒し・健康・美容」をコンセプトに取り組みを進めています。その一環として、里山の活用を図るため、新たに取り組みを追加します。

#### ◆主な取り組み

- ・里山ウォーキング ・茶摘み体験 ・竹のクラフトづくり、竹紙すき体験 ・植物観察会 ・たけのこ掘り ・しいたけ狩り
- ・収穫野菜を使った料理体験 ・森林ヨガ、青空ヨガ ・森林浴、森林セラピー など

## 目標設定

### ◆指標

項目	策定時の値 (H27年度)	令和3年度	令和8年度	関連する取組目標
穂谷地区で開催されるイベントの来場者数	—	2900人（R4）	3300人	新規



# 癒しの郷 氷室・津田～美 (be) Healthプロジェクト～

## 助走(実施済)

	<p><b>すもも栽培・商品化</b> ヒタエシロやヒタエカラ豊富なすももの栽培や肥料・農水利用技術のすももサイダー等、おいとましい高糖度の産物や商品化</p> <p>群馬大学、協力農家、農工業者</p>	助走	100%
	<p><b>いちご、ニンニク、黒糖豆の栽培・現地販売</b></p> <p>協力農家</p>	助走	100%

	<p><b>コスモス、ひまわりの栽培</b></p> <p>協力農家</p>	助走	100%
	<p><b>そば製菓化</b></p> <p>コトブキアイスクリーム、sato's</p>	助走	100%

	<p><b>栗11ワイキング</b></p> <p>ナランディア提供、sato's</p>	販売	100%
	<p><b>新種みそ体験</b></p> <p>ボランティア提供</p>	助走	100%
	<p><b>竹のクラフト作り 竹紙すき体験</b></p> <p>ボランティア提供、sato's</p>	助走	100%

## HOP!

①	<p><b>たけのこ鑑り</b></p> <p>協力農家、ボランティア提供</p>	HOP!	50%
②	<p><b>さつまいもの収穫体験</b></p> <p>実際に収穫のなすやピーマン等の芋アツイもの収穫体験</p> <p>協力農家、農工業者</p>	HOP!	50%
③	<p><b>トモロコシの収穫体験</b></p> <p>食料館やピザ店、ピザ店、ピザ店等のトモロコシの収穫体験</p> <p>協力農家、農工業者</p>	HOP!	50%
④	<p><b>収穫野菜を使った料理体験</b></p> <p>協力農家</p>	HOP!	50%
⑤	<p><b>たき火鑑り</b></p> <p>環境が美しい自然を堪能してたき火鑑り、鑑り鑑り鑑り</p> <p>ボランティア提供</p>	HOP!	50%
⑥	<p><b>青空ヨガ・森林ヨガ</b></p> <p>ボランティア提供、sato's</p>	HOP!	50%
⑦	<p><b>田植え体験</b></p> <p>協力農家、ボランティア提供</p>	HOP!	50%
⑧	<p><b>フィットセラピー</b></p> <p>ハーブをはじめとする植物の力を活用して心身ともに健康になる身体講座の実施</p> <p>協力農家、大学、ボランティア提供</p>	HOP!	50%
⑨	<p><b>(区) 東部地域整備 ～魅力再発見～</b> 東部の地域整備を盛り起こし、魅力再発見</p> <p>協力農家、大学、ボランティア提供、事業主</p>	HOP!	50%

## STEP!

⑩	<p><b>農産ボランティア体験、農産シェアリングシステム</b></p> <p>農産物とつながる体験型シェアリングシステム、農産物によって農産物の付加価値</p> <p>協力農家、大学、ボランティア提供、事業主</p>	STEP!	50%
⑪	<p><b>エディブルフラワーの栽培</b></p> <p>エディブルフラワーを他地方の新たな特産品とすることを目的として、東部地域での普及を目指す</p> <p>群馬大学、協力農家、農工業者</p>	STEP!	20%
⑫	<p><b>メンタルヘルス研修</b></p> <p>研修での学びのある地域の産物を活用して、企業でのメンタルヘルス研修を行う</p> <p>協力農家、ボランティア提供</p>	STEP!	20%
⑬	<p><b>田んぼラグビー</b></p> <p>協力農家、ボランティア提供、sato's</p>	STEP!	20%
⑭	<p><b>アロマセラピー</b></p> <p>アロマセラピーセンター、ローゼットーなどを活用し、アロマセラピーの知識、スキルを体験型講座で実施</p> <p>協力農家、大学、sato's</p>	STEP!	20%
⑮	<p><b>森林浴・森林セラピー</b></p> <p>大学など研究機関と連携し、自然環境のよさを最大限に活用し、つながるネットワークを構築</p> <p>大学、ボランティア提供</p>	STEP!	20%
⑯	<p><b>しいたけ作り</b></p> <p>協力農家、ボランティア提供</p>	STEP!	20%

※ロードマップ

区分	2021・2022年 (令和3～4年)	2023年 (令和5年)	2024年 (令和6年)	2025年 (令和7年)
ステータ	<p><b>助走</b></p> <p>試行実施・評価抽出 プログラム実施率 ～25%</p>	<p><b>HOP!</b></p> <p>試行実施・評価抽出 プログラム実施率 25～50%</p>	<p><b>STEP!</b></p> <p>試行実施・評価抽出 プログラム実施率 50～75%</p>	<p><b>JUMP!</b></p> <p>万博2025 プログラム実施率 100%</p>

## JUMP!

⑩	<p><b>ため池遊歩道</b></p> <p>市、町、関係者、事業主</p>	JUMP!	20%
---	---	-------	-----

⑪	<p><b>ハーブの栽培・商品化</b></p> <p>四季折々のハーブを栽培し、首都圏への出荷や観光客向けの商品化を目指す。また、ハーブの活用やハーブ製品の開発・販売の促進を図る</p> <p>群馬大学、協力農家、農工業者</p>	JUMP!	20%
---	--	-------	-----

⑫	<p><b>地元農産物の加工(健康食品含む)・販売(キッチンカー)</b></p> <p>農産物の活用や地域の活性化、食文化の継承などの取組</p> <p>協力農家、ボランティア提供、事業主</p>	JUMP!	20%
---	---	-------	-----

## 目標設定

### ◆指標【再掲】

項目	策定時の値 (H27年度)	令和3年度	令和8年度	関連する取組目標
森林ボランティア育成講座修了者数(累計)	265人	376人	485人	取組目標3
里山ボランティア活動団体の活動日数(累計)	2,243日	3,854日	4,443日→5,000日 (※)	取組目標3
東部地域の緑被率	77.9% (H26)	78.7% (R1)	80.0% (77.9%)	
里山ボランティア活動団体数	6件	8件	8件→10件 (※)	取組目標3
里山保全のイベント参加者数	711人	—	1,000人	取組目標2
森づくり委員会, ボランティア団体意見交換会開催件数	4回	1回	6回	取組目標2・3
里山保全活動をCSR活動として実施している事業者数	3社	5社	8社	取組目標2
穂谷地区で開催されるイベントの来場者数	—	2900人(R4)	3300人	新規

(※) 令和3年度の実績を鑑みて、令和8年度の目標数値を変更しています。